

2012年度

<2012年5月～2013年3月>

知的財産研究会

～これからの“知財マネジメント”を考える～

参加者募集のご案内

企業の知財担当者、弁理士・弁護士などの専門家、知的財産権に関わる全ての方が対象です。知的財産に関する最新の情報を収集する場としてそして、これからの知財管理、すなわち特許・商標・著作権等をどう保護し戦略的に活用していくかを考える場として、ぜひお役立てください。

主 催

社団法人 大阪府工業協会

大阪工業大学

(知的財産専門職大学院・知的財産学部)

後 援

近畿経済産業局 大阪府

1	<p>『ダイキン工業における知財強化の取り組み』 — 中国ブランド戦略・模倣対策事例を含めて</p> <p>5月16日(水) 16:30~18:30</p> <p>多くの企業がグローバルに事業を拡大するなか、知財による商品・技術の保護、さらには知財の活用強化が国内外において求められています。海外売上比率が60%を超えるダイキン工業における知財強化の取り組みについて、世界最大の空調市場である中国での事業展開・ブランド戦略、模倣対策事例をご紹介します。</p> <p><講演者> 西井 光治 氏 [ダイキン工業(株) 法務・コンプライアンス・知財センター 部長]</p>
2	<p>『知的財産関連紛争の実際』</p> <p>法律事務所にはどのような紛争が持ち込まれ、どう対処されるのか。攻める、引くをどう見極めるのか。また、当事者に生じる経済的・人的負担はどのくらいか。今後起こり得る知財紛争の予防と有事対応のために、公刊された事例や、弁護士としての実務経験をご紹介します。</p> <p><講演者> 弁護士 飯島 歩 氏 [弁護士法人 北浜法律事務所]</p>
3	<p>『バイオテクノロジーと特許保護の課題』</p> <p>人工多能性幹細胞 (iPS 細胞) が、日本で生み出された画期的な発明として注目を集めており、今後は再生医療や医薬品開発への活用が期待されています。こうしたバイオテクノロジー分野の研究成果の特許による保護をめぐる問題、生命倫理との関わり、標準化との関わり、ならびにその活用に向けたスキーム構築等について、最近の事例を踏まえながら課題提起します。</p> <p><講演者> 隈藏 康一 氏 [政策研究大学院大学 准教授]</p>
4	<p>『特許情報の検索とその有効活用』</p> <p>特許電子図書館をはじめデータベースに簡単にアクセスできる現在、知財担当者だけでなく研究開発部門の方が自分で特許情報を検索することも日常的になりました。そうなると、いかに必要な情報を抽出し、どのように活用するかがキーポイントになります。効率的な特許調査の方法、および得られた情報の活用方法について考えます。</p> <p><講演者> 中出 良治 氏 [大阪府立大学産学官研究連携コーディネーター 元三菱電機(株)]</p>
5	<p>『パナソニックのブランドマネジメント』</p> <p>パナソニックの事例を中心に、企業におけるブランドマネジメントの実際を概観します。また、社名変更・ブランド統一といった大きなブランド環境変化時における、ブランドマネジメント面や知財・法務面の課題などをご紹介します。</p> <p><講演者> 西野 吉徳 氏 [パナソニック(株) コーポレートブランドプランニング室]</p>
6	<p>『著作権判例に関する最近の動向』</p> <p>最近ではインターネットによるコンテンツの流通が増加しています。これに伴ってネット関連の著作権関係訴訟も増えてきており、注目すべき判例が相次いで出されています。このような状況について、ネット関係以外のものも含め、近時の著作権関係訴訟の動向について概観します。</p> <p><講演者> 弁護士 岡村 久道 氏 [弁護士法人 英知法律事務所]</p>
7	<p>『発明の進歩性判断 —最近の動きとその対応—』</p> <p>特許を取得する際の最も重要な要件が、発明の進歩性です。逆に、競争相手の特許を潰すためには、その発明の進歩性を否定することが重要な戦術となります。ところが最近、発明の進歩性の基準が大きく変動しつつあります。そこで、知的財産高裁の最近の判決を分析しながら、その動きを俯瞰し、対応を考えていくこととします。</p> <p><講演者> 石井 正 氏 [大阪工業大学名誉教授 元特許庁特許技監]</p>
8	<p>『知的財産政策の最前線から』</p> <p>経済のグローバル化が急速に進むなかで、知的財産制度についても国際的な競争の時代を迎えています。この厳しい競争を勝ち抜くために、日本の特許庁では、特許、意匠、商標等について何を考え、どのような手を打ちつつあるかについてをご紹介します。</p> <p><講演者> 小林 徹 氏 [特許庁 知的財産研究官]</p>
9	<p>『二つのニッチトップ経営戦略と知財マネジメント』</p> <p>日東電工は今後の成長マーケットに向けて、グローバルニッチトップとエリアニッチトップという二つのニッチトップ経営戦略で、さらなるグローバル化を展開しています。そのなかで各々の事業戦略や業界動向の変化に追従・連動しつつ、事業収益を最大化し、事業に持続的に貢献するための知財活動を目指しています。第三者の知財力評価などを考察しつつ知財活動を紹介します。</p> <p><講演者> 井上 昌三 氏 [日東電工(株) 知的財産統轄部長]</p>
10	<p>『中国における研究開発成果に関する実務問題』</p> <p>日本企業の中国子会社での開発、および日本企業と中国企業との共同開発の中で生まれる、中国における研究開発成果物に関する第一国出願の問題、技術の輸出入管理の問題、職務発明(報償)の取り扱いなどの問題について、参加者と意見交換しながら解説・検討していきます。</p> <p><講演者> 弁理士 小倉 啓七 氏 [特許業務法人 グローバル知財]</p>

- **運営方法**

 - 左面に記載のスケジュールに従い、毎月1回の定例研究会を開催します。
(8月は休会です)
 - 研究会は2時間とし、まずテーマに沿ったレクチャーを行い、そのあと質疑応答を含めたディスカッションを行います。
 - 大阪工業大学知的財産学部長の田浪和生氏がコーディネータを務め、講演者と参加者、および参加者間の橋渡しをします。
 - 開催の概ね3週間前に、次回の日時、場所、テーマを事務局よりE-mailでお知らせし、出欠のご都合を返信していただくこととします。
(参加申し込みの際、メールアドレスをご記入ください)
 - 開催日に登録メンバーのご都合がつかない場合、代理出席も可能です。
- **参加対象者**

企業の知的財産担当者、法務、経営企画、研究・開発部門の方
研究機関や大学などの研究者・知財スタッフ
弁理士・弁護士などの専門家
など、知財に関わっておられる方、ご関心のある方はぜひご参加ください
- **開催時間**

午後6時～8時
ただし、第1回、第7回は開始時刻を早め、引き続き懇親会を行います
→ 研究会 16:30～18:30 交流懇親会 18:30～20:00
- **会 場**

大阪工業大学 梅田サテライトキャンパス (毎日インテシオビル3階)
<学校法人 常翔学園 大阪センター>
所在地：大阪市北区梅田3-4-5 (JR大阪駅、地下鉄梅田駅から徒歩約10分)
- **参加費**

1年間(全10回)の参加費として1名(1口)につき **63,000円** (消費税を含みます)
*参加登録1口につき、1名ご参加いただけます。
登録メンバーご本人の都合がつかない場合は、代理出席も可能です。
*交流懇親会の参加費は別途徴収させていただきます。
- **申込方法**

裏面の参加申込書を事務局(大阪府工業協会)宛に、FAXにてお送りください。
折り返し、参加票および会場案内図、参加費請求書・振込用紙をお送りします。
【申し込み期限：5月14日(月)】

□ **お問い合わせ、お申し込み先**

《運営事務局》 社団法人 大阪府工業協会 事業部

大阪市中央区本町4丁目2-5 本町セントラルビル6階 (〒541-0053)

電 話 06-6251-1138 / FAX 06-6245-9926 (申込書送信先)

E-mail info@opmia.or.jp

【参考】前年度の参加登録メンバー

(五十音順)

エスケー化研(株)	東洋ゴム工業(株)
(株)エム・システム技研	東レエンジニアリング(株)
(株)エンジニア	(株)日研工作所
大阪ガス(株)	日東電工(株)
奥野製薬工業(株)	日本金銭機械(株)
(株)神崎高級工機製作所	(株)日本触媒
倉敷紡績(株)	(株)ノーリツ
コタ(株)	パナソニック(株)
(株)サピエンティスト	ペガサスミシン製造(株)
サラヤ(株)	(株)ユー・エム・アイ
タツタ電線(株)	(株)湯山製作所
大成機工(株)	(株)ワイゼル
ダイトーケミックス(株)	ほか弁護士、弁理士
大和ハウス工業(株)	
Techno Producer(株)	
トクデン(株)	





1970年横浜国立大学工学部を卒業し、キヤノン(株)に入社。特許部門にて約33年間にわたって同社の知的財産業務を一貫して担当。発明発掘から権利化、維持までの業務(国内外特許明細書作成500件以上)、国内・海外企業とのクロスライセンス、特許侵害訴訟、模倣品対策、および社内の発明規程の策定など、企業における知的財産管理実務のすべてを経験してきた。同社知的財産法務本部 契約・渉外センター所長を最後に、2003年4月、大阪工業大学知的財産学部の開設と同時に実務家教員として迎えられた。2005年4月、同大学大学院知的財産研究科教授。知的財産のエキスパートを志す学生の指導にあたっている。
2011年4月、知的財産学部長・大学院知的財産研究科長に就任。

大阪工業大学は大正11年に創設された関西工学専修学校が前身で、現在、工学部、情報科学部、知的財産学部の三学部を擁し、姉妹大学に 摂南大学、広島国際大学がある。
とりわけ、プロパテント時代を見据えた知的財産学部の創設は日本初であり、独自性を発揮する大学として全国から注目を集めた。教員に企業の知的財産部門や特許庁などから経験豊富な人材を迎えていることも大きな特色となっている。さらに2005年4月、こちらもわが国初となる“知財版ロースクール”知的財産専門職大学院(知的財産研究科)を開設し、高度人材教育に注力している。

ホームページ <http://www.oit.ac.jp/ip/>

2012年度「知的財産研究会」参加登録申込書

主催：社団法人 大阪府工業協会 / 大阪工業大学

申込日：平成 24 年 月 日

参加登録者氏名	(ふりがな)		
会社名 (団体名)			
所属部署名 および役職名			
事業内容 取扱製品・商品など			

所在地 (連絡先)	[〒 -]		
	電話		FAX

E-mail アドレス

◆ 通信欄 …研究会に対するご要望、ご関心のある内容など、ご自由にお書きください

※ご記入いただきました内容は、研究会の運営事務(請求書や案内の送付)に利用します。
また、参加者名簿を作成し参加者および講演者に配付します。(氏名、会社名、役職、事業内容を一覧表にします)

お申込みはファックスどうぞ… FAX 06-6245-9926 事務局 (社)大阪府工業協会